

第6章 コース実施によるプランの検証と修正

第6章 コース実施によるプランの検証と修正

第1節 コース実施によって分かったこと、諸反省点

1-1 「満点追求」のコンセプトについて

今回の試行実施によって、当初描いた「満点追求」のコーステーマが、事実上ふたつのまたは二重の意味を持っていることが明らかになったと考えられる。それは作業結果すなわち製作品の上での満点追求であり、同時にそれを追求する姿勢、態度としての満点追求である。後のものは絶えざる工夫、向上心といっても良いだろう。後者がなければ前者は単なる「100点満点」追求に過ぎない。

そして、この二重の意味での満点追求は、基本的なことあるいは初歩的なことについても「完璧」を要求する指導となって現れる。例えば、毎日の始業時の準備点検、精度検査にもそれが問われる。高度熟練の「満点」は基本的な作業の「満点」の上に成り立っているのだということが、コースを通して受講者に体得されるのがこの「満点追求コース」のテーマなのだといえよう。

基礎・基本における「満点」「完璧」の追及は基礎・基本の意義、重要性を改めて考え直させるものである。それは現場的・実践的な作業において求められる「精度・速度・美観」といった製品要件を追及できるためにこそ基礎・基本が大切であるという点である。つまり、基礎・基本の訓練の最初から「精度・速度・美観」という目標があり、「完璧」「満点」の追求があるということである。

1-2 受講者の技能の質とコース進行への反省

今回実施のコースは、十分な指導態勢（複数で担当した）で受講者に合わせた柔軟な対応を行ったため、非常に高い教育訓練成果を上げることができた。受講者の満足度も大きかった。また1で述べたコンセプトの実現という点でも十分評価できる成果を上げたと言えるが、当初の計画に照らして具体的に考えてみると反省すべき点も多い。

一般企業を対象に公募するコースとしては、受講者の技能レベルの想定がやや高すぎたといわざるを得ない。一般に中級以上のコースを実施しようとする場合に適切な技能レベルの受講生を集めることは難しいが、それだけではない。今回の受講者の中で検定2級を持っている2名についても基本的技能の教育は不十分であることが分かった。OJT中心で技能を身に付け、2級課題の練習をして受験した2級技能者の場合、この2名のような基本的技能の不十分さを抱えているという問題は一般的であると考えられる。したがって、検定2級所持者に受講者を限定して実施しても、今回のコース進行は改善すべき余地があるといわざるを得ない。実施後の委員会等での各委員の意見はこの点でほぼ一致していた。具体的に出された意見は次のようなものであった。

* 課題の提示は一度に全部するのではなく、要素ごとで実施する。そして一つ一つの要素実習を行いながら細かな指導をした方が良いのではないか。

* 課題3は目標技能レベルに達しないものに実施させる必要はない。

* 課題実習に入る前の準備段階として、測定具の厳密な使用方法や知識、また基本的切削条件等の理解を習得させるために、前半に時間を設けた方が良いと思える。

* 受講者の技能レベルに関係なく、六面体加工などの要素作業についてレベルの高い指導を盛り込む必要があるのではないか。

* かなり高い技能レベルを想定して、まず課題作成をやらせてその後に問題点を指摘しながら指導していく計画でいたが、実際にやってみて、やはり「やって見せて・言わせて・やらせる」というサイクルが肝心だと感じた。

第2節 修正カリキュラム

以上の反省点を踏まえて修正カリキュラムをまとめた。

表6-1 コース日程表（修正）

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
9:00	導入教育(目的、安全)	準備作業	準備作業	準備作業	準備作業
10:00	基本実技(構造、操作)	課題1の作成(目標2 H)	課題2の技能提示と指導	課題2の作成(目標2.5 H)	課題2の作成(2.5 H 得点90点以上) または課題3
13:00	精度検査(バイス、他)	課題1の評価・指導	課題2の作成(目標3 H)	課題2の測定・評価・指導(加工技能・測定技能と準備)	課題2の測定・評価 個別指導
14:00	課題1の技能提示と指導	課題2の技能提示と指導	課題2の測定・評価・指導(加工技能・測定技能と準備)	課題2の作成(要素作業)	清掃・整理
15:00	課題1の作成	課題2の作成(要素作業)			自己計画作成・発表
16:00	清掃	清掃	清掃	清掃	
17:00	まとめ(教室)	まとめ(教室)	まとめ(教室)	まとめ(教室)	(閉講式)

主な修正点は、冒頭の2日をかけて、課題1の六面体加工を中心に、精度検査や測定、加工の基本について「満点追求」の指導を行うという点である。ここで各作業の意味、「なぜ」という理論・知識も含めて厳密に確認し、精密加工の「満点追求」の基礎・第一歩をしっかりと固めようということである。「高度熟練のハイレベルは、結局、基礎的なものから一つ一つの要素の完璧を要求する」という理解からこのような改善を加えることになった。

この後に、課題2を中心にして、「技能提示」「要点の理解度確認」「加工チャレンジ」「評価」と実習指導の定石に忠実に進めていく。なお、課題3は、受講生のレベルや進行状況を見ながらコースをフレキシブルに対応させていくために、用意しておくものとする。特に、かなり確かな二級の実力があって検定一級受験準備を望む人などには課題3をもって対応する必要もあろう。

